

## A. 0002

業界関係者の方々は、読まないでください。過激な答えをしますから。

まず、あなたに勤め先があれば「年末調整」をしていると思います。そのとき「控除証明」という書類を添えるのですが、その際、生命保険料控除の対象の契約は生命保険で、そのほかは損害保険であろう、という感覚があれば、よいと考えます。

木村栄一という斯界の権威であった方の研究によれば、現存する保険証券で世界最古と言われる書面は「奴隷保険」だそうです。人がモノだった時代から、いわゆる保険的な考え方はされていたわけで、やれ、生命保険だ、損害保険だというのは、あとからとってつけた理屈ですね。

戦利品としての人間を運搬するには、地上なら歩かせればよいわけで、途中失う（死んじゃう！）ものがいても残ったモノだけ活用できればよろしい、というのが勝者の論理だろうと思います。戦さの態を為さず、ヒトの略奪拉致をして、商品として運ぶことがあります。運送経路に海がある場合は、船を使わざるをえない。となると、どんなにぎゅうぎゅう詰めにしても載せられる物量には限りがあります。100 個（人！）を売買するのに、20 個運搬途中で失うだろうから、120 搬入しようとしても、載らないモノは載らない。となると、引き渡せる歩止りに対して、金銭ほしょうをするようになります。これ、もう、保険ですね。いまの私たちが人道的でない難癖をつけようが、人間をモノとして扱ってはならないとの人身売買禁止の考え方より、保険の考え方のほうが発生が新しいのですから、致し方ありません。

ちなみに、人権という言葉が流布したのは、フランス革命の成果、かの「人間と市民の権利の宣言（いわゆる「人権宣言」）」のたかだが 30 年前と、歴史学者リン・ハントは記します。

起源がいかなる理由場合であっても、ひとびとの福利につながるように改変していく力をも私たちは持っています。いまの、これからの保険というものが、さいわいを導く考え方を大きくしていくことが、大切。現行制度の区分はあまり意味と価値を持たないと私は考えます。